問題１

60歳の女性。事務員。高血圧で降圧薬を服用していた。夕方背部の不快感があったがそのまま様子を見ていた。午後11時頃、突然強い背部痛と胸がしめつけられる症状が出現したため救急車で来院した。入院時の血圧は200/118mmHg、心拍数116/分、呼吸数26/分、意識は清明であったがぐったりしていた。胸部X-P、心電図、胸部CT検査などで解離性大動脈瘤と診断され、翌日の手術が予定された。塩酸モルヒネによる疼痛管理と、カルシウム拮抗薬の持続点滴静脈内注射が開始され、翌朝の手術が手配された。

１）入院後、動作はできるだけゆっくりすること、手術まではベッド上安静を保つことが説明された。その主たる理由はどれか。

1.　血圧の変動を防ぐ。

2.　心筋酸素消費量を下げる。

3.　末梢循環血液量を確保する。

4.　ガス交換の効率を高める。

２）人工血管置換術が行われた。その後、順調に回復し退院に向けワーファリンと降圧薬（βブロッカー）の服薬指導を受けた。正しいのはどれか。

1.　ワーファリンは再解離予防のためである。

2.　降圧薬は決められた時間に飲む。

3.　納豆はワーファリンの作用を増強する。

4.　柑橘類の摂取は避ける。

問題２

48歳、男性は、８年前から高血圧症、脂質異常症および労作性狭心症に対して内服治療をしていた。胸部絞扼感が時々出現し、血管造影の結果左冠動脈前下降枝の狭窄が認められ、経皮的冠動脈形成術〈PCI〉を実施することになった。身長165cm、体重80kgである。午前９時過ぎから左橈骨動脈を穿刺し、狭窄部位である左冠状動脈にステント留置術が行われ、午前11時ころに終了した。

1）経皮的冠動脈形成術〈PCI〉終了後、穿刺部位を圧迫固定した。気分不快などの症状はない。術後のＡさんへの説明で適切なのはどれか。

1.　「圧迫固定すればすぐに歩行できます」

2.　「夕食まで食事はできません」

3.　「２日後までシャワー浴はできません」

4.　「左手首の圧迫固定は明日の朝まで行います」

２）経皮的冠動脈形成術〈PCI〉終了後も点滴静脈内注射が継続され、抗血小板薬と抗菌薬の投与が行われた。その後、看護師はＡさんの穿刺部位の出血がないことを確認した。次に行う観察で最も注意すべき項目はどれか。

1.　発　熱

2.　麻痺症状

3.　皮膚の黄染

4.　穿刺部位の感染徴候

問題３

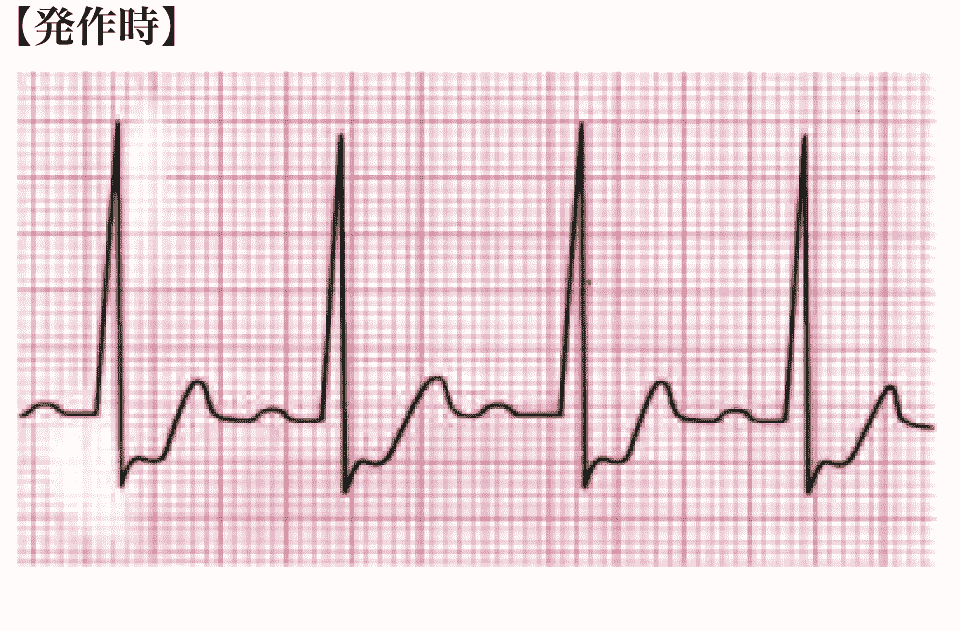
56歳、男性は、コンビニエンスストアの店長で自動車を運転して通勤している。不規則な生活が続き、ストレスが溜まることも多く、十分な睡眠がとれないこともあった。荷物を運ぶときに胸部の圧迫感が繰り返し出現し受診したところ、狭心症が疑われたため検査をすることになった。脂質異常症の既往がある。  
  
1）Ａさんの運動負荷心電図検査（トレッドミル運動負荷試験）の結果を示す。このときの心電図の所見で適切なのはどれか。

1.　発作時はST低下がある。

2.　発作時はＰ波が低下している。

3.　発作時は異常Ｑ波がある。

4.　発作時は冠性Ｔ波がある。



２）検査の結果、Ａさんは労作性狭心症と診断され、硝酸薬、カルシウム拮抗薬および抗血小板薬を内服することになった。その後、外来通院を続け、以前と同様に負荷のかかる作業もできるようになった。内服治療から１か月後、胸部の圧迫感が強くなり、時々左上腕から前腕にかけての放散痛も出現するようになったため、経皮的冠動脈形成術〈PCI〉を受けた。カテーテルは右大腿動脈から挿入されていた。手術中から抗凝固療法を実施している。  
手術直後の観察項目として適切なのはどれか。２つ選べ。

1.　乏尿の有無

2.　皮膚の黄染

3.　出血の有無

4.　両足背動脈の触知

5.　穿刺部位の感染徴候

問題4

60歳、男性は、自宅近くを散歩中に突然の胸痛が出現し、救急車を要請した。救急隊到着時のバイタルサインは、呼吸数28/分、脈拍100/分、血圧80/40mmHgであった。冷汗が著明で、前胸部から左肩にかけての激痛を訴えていた。入院時の検査で急性心筋梗塞と診断された。  
  
1）このときの検査所見として適切なのはどれか。

1.　心電図のST上昇

2.　左肺呼吸音の減弱

3.　クレアチンキナーゼ〈CK〉の下降

4.　胸部エックス線写真での心陰影の縮小

２）緊急心臓カテーテル検査で左冠動脈起始部に90%の閉塞を認め、緊急冠動脈バイパス術が行われた。術後５日、集中治療室から一般病棟に転棟した。Ａさんは「手術も無事終わって命が助かった。リハビリテーションが大切と聞いたので、頑張って廊下を歩きますよ」と看護師に話した。術後のADL拡大は順調に進み、Ａさんは病棟内での200mの歩行が許可されている。胸部症状の出現や心電図の変化は認めない。Ａさんへの心臓リハビリテーションについて適切なのはどれか。

1.　息苦しさが出現したら中止する。

2.　気分の良いときに階段昇降を勧める。

3.　衣服の着脱は家族に介助してもらう。

4.　レジスタンストレーニングを中心に行う。

問題４

54歳、男性は、10年前に心筋梗塞を発症し、２年前に慢性心不全と診断され外来受診を続けてきた。１週前からトイレ歩行時に息苦しさがあり、４日前から夜に咳と痰とがみられ眠れなくなっていた。本日、Aさんは定期受診のため来院し、心不全の増悪と診断され入院した。入院時、体温36.3℃、呼吸数24/分、脈拍96/分、整で、血圧124/72mmHgであった。心エコー検査で左室の駆出率28％であった。体重は１週間で４kg増加し下肢の浮腫がみられる。  
  
1）このときのAさんのアセスメントで適切なのはどれか。

1.　ショック状態の可能性が高い。

2.　左心不全の症状はみられない。

3.　左室駆出率は正常である。

4.　浮腫は右心不全の症状によると考えられる。

２）Aさんの咳嗽を軽減する方法で最も適切なのはどれか。

1.　起坐位を保つ。

2.　腹式呼吸を促す。

3.　部屋の湿度を30％に保つ。

4.　超音波ネブライザーを使用する。

３）入院治療によりAさんの症状は改善し、２日後に退院予定である。退院後の受診についての説明で最も適切なのはどれか。

1.　「夜間の咳で受診する必要はありません」

2.　「体温が38.0℃以下なら受診の必要はありません」

3.　「今回のように体重が増加したときは受診してください」

4.　「仕事から帰って足に浮腫がみられたら受診してください」

問題5

開心術後１日、心タンポナーデの徴候はどれか。２つ選べ。

1.　脈圧増加

2.　血圧上昇

3.　尿量増加

4.　中心静脈圧上昇

5.　胸部エックス線写真での心拡大像

問題6

心臓手術後の心タンポナーデについて誤っているのはどれか。

1.　胸内苦悶

2.　頻脈

3.　心拍出量の増加

4.　中心静脈圧の上昇

問題7

44歳の男性。リウマチ熱の既往があり、３年前から僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症と診断され、利尿薬とジギタリスを服用していた。趣味はテニスだったが、最近平らな道を歩いていても動悸や息切れがしてきたため入院した。身長162cm。体重58kg。心拍数100/分、脈拍数は橈骨動脈で86/分。心電図では心房細動であった。血圧100/66mmHg。呼吸困難、下腿の浮腫、仰臥位で頸静脈の怒張が観察された。  
  
１）精密検査の結果、手術が必要と診断され、入院１週後、僧帽弁置換術を受けた。術後１日、脈拍数122/分、血圧80/56mmHg、中心静脈圧25cmH2O、動脈血酸素分圧（PaO２）96mmHg。尿量30㎖/時。胸部エックス線撮影で心拡大の増強がみられた。考えられるのはどれか。  
a．無気肺  
b．肺塞栓症  
c．心タンポナーデ  
d．低心拍出量症候群

1.　a，b

2.　a，d

3.　b，c

4.　c，d

２）術後６週には状態が安定し、退院が決まった。ワーファリンは引き続き内服することになった。退院指導で正しいのはどれか。

1.　ワーファリンの作用は、感冒薬と併用すると弱まると説明する。

2.　抜歯をするときは事前に主治医に相談するよう説明する。

3.　趣味のテニスを再開するようすすめる。

4.　食事に関しては塩分制限以外は考慮しなくてよいと説明する。

問題8

手術中に下肢に弾性ストッキングを着用する主な目的はどれか。

1.　浮腫の軽減

2.　筋力の維持

3.　体温低下の予防

4.　深部静脈血栓形成の予防

問題9

心房細動で発症リスクが高まるのはどれか。

1.　脳塞栓

2.　脳出血

3.　心筋炎

4.　心外膜炎

問題10

急性左心不全の症状はどれか。

1.　肝腫大

2.　呼吸困難

3.　下腿浮腫

4.　頸静脈怒張

問題11

急性心筋梗塞において上昇のピークが最も早いのはどれか。

1.　AST〈GOT〉

2.　ALT〈GPT〉

3.　LD〈LDH〉

4.　CK〈CPK〉

問題12

心筋梗塞が発生する危険が高いタイプの狭心症はどれか。

1.　労作によって痛みが起こる。

2.　締めつけられるような痛みである。

3.　ニトログリセリンを用いても痛みが消えにくい。

4.　左頸部にも痛みを感じる。

問題13

心筋梗塞の危険因子となりにくいのはどれか。

1.　喫煙

2.　糖尿病

3.　高脂血症

4.　骨粗鬆症

問題14

65歳の男性。２日前脳梗塞を発症し言語障害をきたした。「生年月日はいつですか」と尋ねたところ「はい、そうです。何だかわかりませんが、何にもどうにもいました。何かそういうあります」と明瞭な口調で答えた。運動神経麻痺はなく、統合失調症の既往はない。この障害はどれか。

1.　作　話

2.　構音障害

3.　ブローカ失語

4.　ウェルニッケ失語

問題15

ジャパン・コーマ・スケールでⅡ−30の右半身麻痺がある患者に、口腔から痰を吸引した場合の反応で最も可能性が高いのはどれか。

1.　反応はない。

2.　左上肢で払いのけようとする。

3.　自分から口を開ける。

4.　「痛い」と言う。

問題16

呼びかけに反応しない意識障害の患者に、痛み刺激を加えたところ、かろうじて開眼した。ジャパン・コーマ・スケール〈JCS〉による評価はどれか。

1.　Ⅱ−20

2.　Ⅱ−30

3.　Ⅲ−100

4.　Ⅲ−200

問題17

高血圧性脳出血で最も頻度の高い出血部位はどれか。

1.　被　殻

2.　視　床

3.　小　脳

4.　橋

問題18

70歳、男性。妻（74歳）と２人で暮らしている。Ａさんがトイレに入ったまま戻ってこないので妻が見に行くと、トイレで倒れていた。妻が発見直後に救急車を要請した。救急隊からの情報ではジャパン・コーマ・スケール〈JCS〉Ⅱ－20で右片麻痺があり、バイタルサインは、体温36.5℃、呼吸数16/分、脈拍108/分、血圧200/120mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO2〉96%であった。

救命救急センター到着時に観察する項目で最も優先するのはどれか。

1.　体　温

2.　心電図波形

3.　意識レベル

4.　尿失禁の有無

問題19

70歳の男性。夕食時に頭痛、嘔吐および麻痺が出現したため救急車で搬送された。体温37.5℃、脈拍数70/分、血圧200/120mmHg。呼びかけには開眼するが質問には答えられない。頭部単純エックス線CTの結果、右被殻部に出血を認め高血圧性脳出血と診断された。

入院時の看護で優先するのはどれか。

1.　麻痺側の他動運動

2.　気道の浄化

3.　脳血流量の確保

4.　意識レベルの観察

問題20

48歳の男性。職場での会議中にこれまで経験したことのない頭痛におそわれ、頭を抱えるように椅子に座り込んだ。さらに、猛烈な吐き気により嘔吐した。病院に到着後、CT検査が行われた。  
1）来院時の症状・徴候として出現する可能性があるのはどれか。

1.　耳出血

2.　項部硬直

3.　眼底出血

4.　髄液鼻漏

２）検査後、緊急手術が予定され術前準備が開始された。妻が「だいぶ吐いたようですし、夫はきれい好きなので入浴はできませんか」と看護師に尋ねた。清潔援助の方法で適切なのはどれか。

1.　ベッド上に臥床した全身清拭

2.　ベッドに腰掛けての全身清拭

3.　椅子を使用したシャワー浴

4.　ストレッチャーを使用したリフトバス

３）中大脳動脈に動脈瘤がありクリッピング手術が行われたが、患部が深く手術時間が長引いた。術後意識は回復したが、錯語が多くコミュニケーションが成立しなくなった。この男性の失語症はどれか。

1.　全失語

2.　名称失語（健忘失語）

3.　ブローカ（Broca）失語

4.　ウェルニッケ（Wernicke）失語

問題21

65歳、男性は、午後２時、会議の最中に急に発語しづらくなり、右上下肢に力が入らなくなったため、同僚に連れられて救急外来を受診した。既往歴に特記すべきことはない。来院時、ジャパン・コーマ・スケール〈JCS〉I－３、瞳孔径は両側2.0mm。呼吸数18/分、脈拍60～80/分、不整で、血圧176/100mmHg。右上下肢に麻痺がある。午後４時、頭部CTの所見で特に異常は認められなかったが、MRIの所見では左側頭葉に虚血性の病変が認められた。

1）この後の治療でまず検討されるのはどれか。

1.　血流の再開

2.　脳浮腫の予防

3.　出血性素因の除去

4.　脳血管攣縮の治療

２）心原性の脳梗塞と診断され、入院後に治療が開始された。入院後５日、意識レベルがジャパン・コーマ・スケール〈JCS〉Ⅱ－30まで低下した。頭部CTで出血性梗塞と脳浮腫とが認められ、気管内挿管・人工呼吸器管理を行い、マンニトールを投与してしばらく経過をみることになった。この時点の看護で適切なのはどれか。２つ選べ。

1.　電気毛布で保温する。

2.　瞳孔不同の有無を観察する。

3.　水分出納を正のバランスに管理する。

4.　Cushing〈クッシング〉現象に注意する。

5.　ベッドを水平位にして安静を維持する。

問題22

頭蓋内圧亢進時に観察される呼吸はどれか。

1.　異常に深く規則的である。

2.　呼吸と無呼吸との周期が規則的である。

3.　吸気時に鼻翼が開大する。

4.　吸気時に下顎が上下する。

問題23

頭蓋内圧亢進を助長するのはどれか。

1.　便　秘

2.　酸素療法

3.　浸透圧利尿薬

4.　Fowler〈ファウラー〉位

問題24

58歳の男性。会社役員。妻と子どもとの３人暮らし。出勤途中の電車内で意識消失し、けいれん発作を起こして搬送された。検査の結果、脳腫瘍の疑いで入院した。

入院後、頭痛と嘔吐があり、頭蓋内圧亢進症状が認められた。起こりやすいのはどれか。

1.　徐脈

2.　体温低下

3.　血圧低下

4.　呼吸数増加

問題25

Ａさんは、胃癌の終末期で、肺の癌性リンパ管症による呼吸困難があり「夜も眠れない」と訴えている。フェイスマスクによる酸素（８ℓ/分）とモルヒネ塩酸塩（20mg/日）とを投与中である。呼吸数30/分。脈拍120/分。痛みの訴えはない。看護師の対応で適切なのはどれか。

1.　酸素流量を15ℓ/分に増やす。

2.　モルヒネ塩酸塩の増量を検討する。

3.　呼吸は数日で楽になると説明する。

4.　ネブライザーによる吸入で気道を加湿する。

問題26

45歳の女性。２か月前から咳嗽と喀痰とが出現した。最近、倦怠感も強くなったため受診した。胸部エックス線写真で左肺上葉に異常陰影を認め、精査と治療とを目的に入院した。

1）経気管支肺生検（TBLB）が予定された。肺生検前の説明で適切なのはどれか。

1.　「検査前日の夜９時以降は飲水できません」

2.　「気管支鏡を入れるときには息を止めてください」

3.　「苦しいときは手を挙げて合図してください」

4.　「検査後には積極的に咳をして痰を出してください」

２）左肺上葉切除術後２日目、右肺下葉で呼吸音が聴取されない。体温37.4℃。呼吸は浅表性で25/分、血圧164/96mmHg。鼻カニューレで３ℓ/分の酸素吸入を行い、経皮的動脈血酸素飽和度86％。胸腔ドレーンは−10cmH2Oで低圧持続吸引している。痰がからんでいるため喀出を促したが「痛くてそれどころではない」と顔をしかめた。対応で最も適切なのはどれか。

1.　酸素投与量を増やす。

2.　去痰薬の吸入を行う。

3.　気管支鏡による気管内吸引の準備をする。

4.　胸腔ドレーン吸引圧を上げる。

問題27

Ａさん（58歳、男性）、建築作業員。趣味はジョギングで毎日５kmを走っている。55歳のときに肺気腫を指摘されている。１か月前から咳嗽が続いて止まらないため、自宅近くの病院を受診した。胸部エックス線撮影で異常陰影が認められ、精密検査の結果、右下葉に肺癌が見つかり、標準開胸右下葉切除術が予定された。20歳から喫煙歴があり、肺気腫を指摘されるまで１日40本程度吸っていた。

術後２日。硬膜外持続鎮痛法が行われているが、Ａさんは咳嗽時や体動時に苦痛表情をしている。看護師の対応として適切なのはどれか。

1.　体動を少なくするように指導する。

2.　創部のガーゼの上から温罨法を行う。

3.　鎮痛薬の追加使用について医師と検討する。

4.　胸腔ドレーンの吸引圧について医師と検討する。

問題28

食道癌について正しいのはどれか。２つ選べ。

1.　頸部食道に好発する。

2.　放射線感受性は低い。

3.　アルコール飲料は危険因子である。

4.　日本では扁平上皮癌に比べて腺癌が多い。

5.　ヨードを用いた内視鏡検査は早期診断に有用である。

問題29

食道癌根治術後の患者で正しいのはどれか。

1.　ダンピング症状は起こらない。

2.　食後に逆流誤嚥の危険性はない。

3.　呼吸機能低下によって息切れが生じやすい。

4.　反回神経麻痺によって構音障害が生じやすい。

問題30

進行した食道癌の合併症で現れにくいのはどれか。

1.　反回神経麻痺

2.　逆流性食道炎

3.　食道・気管支瘻

4.　大動脈穿孔

問題31

52歳、男性は、２か月で体重が７kg減少した。２か月前から食事のつかえ感があるため受診した。検査の結果、胸部食道癌と診断され、手術目的で入院した。

1）入院時の検査データは、Hb9.5g/㎗、血清総蛋白5.4g/㎗、アルブミン2.5g/㎗、AST〈GOT〉24IU/ℓ、ALT〈GPT〉25IU/ℓ、γ-GTP38IU/ℓ、尿素窒素18mg/㎗、クレアチニン0.7mg/㎗、プロトロンビン時間82％（基準80～120）であった。Aさんの状況で術後合併症のリスクとなるのはどれか。

1.　出血傾向

2.　腎機能障害

3.　低栄養状態

4.　肝機能障害

２）右開胸開腹胸部食道全摘術と胃を用いた食道再建術とが行われた。術後、人工呼吸器が装着され、術後２日目の朝に気管チューブを抜管し、順調に経過していたが、術後３日目に左下葉の無気肺となった。Ａさんは痰を喀出する際に痛そうな表情をするが「痛み止めはなるべく使いたくない。我慢できるから大丈夫」と話す。無気肺を改善するために適切なのはどれか。２つ選べ。

1.　離床を促す。

2.　胸式呼吸を勧める。

3.　左側臥位を勧める。

4.　鎮痛薬の使用を勧める。

5.　胸腔ドレーンをクランプする。

３）その後、順調に回復し、術後３週目に退院する予定となった。退院後の食事の指導で適切なのはどれか。

1.　「蛋白質を控えた食事にしてください」

2.　「食事は１日３回にしてください」

3.　「食事は時間をかけて食べてください」

4.　「食事の前にコップ１杯の水分を摂るようにしてください」

5.　「食後は横になって過ごしてください」

問題32

64歳の男性。最近仕事上のストレスが続き、疲労感を訴えていた。１～２か月前から食事のつかえ感があり、体重が２か月で10kg減少したため受診した。検査の結果、胸部食道癌と診断された。検査所見は、Hb9.5g/㎗、血清総蛋白5.4g/㎗、アルブミン2.5g/㎗、AST（GOT）24単位/ℓ、尿素窒素18mg/㎗、プロトロンビン時間10秒。手術目的で入院した。

1）手術前の身体的リスクが最も高いのはどれか。

1.　低栄養状態

2.　肝機能障害

3.　腎機能障害

4.　出血傾向

２）術後14日、五分粥食を摂取しているが、嗄声があり、時々食事中にむせている。食事指導で適切なのはどれか。

1.　水分で流し込みながら食べる。

2.　固形物摂取を一時控える。

3.　食後は仰臥位で過ごす。

4.　一口ずつゆっくり食べる。

問題33

胃癌について誤っているのはどれか。

1.　早期癌の浸潤は筋層までである。

2.　進行癌はリンパ節転移が多くみられる。

3.　ボールマン４型はびまん浸潤型である。

4.　組織型では腺癌が多い。

問題34

胃全摘術後の縫合不全の出現時期で最も頻度が高いのはどれか。

1.　術当日

2.　術後48時間以内

3.　術後３～７日

4.　術後２週前後

問題35

58歳の男性。最近、体重が３か月で３kg減少した。仕事中も倦怠感があり、体調が気になり受診し、上部消化管透視と内視鏡検査を受けた結果、幽門側胃癌３型と診断され、ビルロートⅠ法による幽門側胃切除術を受けるため入院した。入院時の血液所見はHb10.0g/㎗、血清総蛋白5.6g/㎗であった。入院前は出張も多く、食事は不規則になりがちで、お茶やビールで流し込みながら食事をすることが多かった。

1）術前オリエンテーションの説明で適切なのはどれか。

1.　「手術の３日前から下剤を服用します。」

2.　「喀痰排出の練習をします。」

3.　「術前に新鮮凍結血漿を使います。」

4.　「手術当日は仰向けのままで過ごします。」

2）手術後５日。体温37.8℃、血液所見は白血球12,000/μℓ、CRP6.8mg/㎗であった。喀痰喀出困難はなく肺音は正常であった。このときの合併症で最も可能性が高いのはどれか。

1.　輸入脚症候群

2.　イレウス

3.　縫合不全

4.　術後貧血

３）術後の症状が安定し、退院が許可された。退院後の食事指導で優先度が高いのはどれか。

1.　よく噛んで時間をかけて食べる。

2.　脂肪分の摂取量を増やす。

3.　香辛料を取り入れ食欲増進を図る。

4.　食事は冷ましてから食べる。

問題36

40歳、男性。入院時体重65kg。既往歴に特記すべきことはなく、全身状態は良好である。胃癌のため胃全摘出術を受けた。術中の出血量は450㎖で輸血はされなかった。術後１日、体温37.5℃、呼吸数24/分、脈拍120/分、血圧162/90mmHg。Hb14.8g/㎗。経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO2〉92％（酸素吸入３ℓ/分）。尿量50㎖/時。創部のドレーンからは少量の淡血性排液がある。硬膜外持続鎮痛法が行われているが、創痛が強いため呼吸が浅く、離床はできていない。

1）術後１日のＡさんのアセスメントで適切なのはどれか。１つ選べ。

1.　体温の上昇は感染による。

2.　脈拍の増加は貧血による。

3.　血圧の上昇は麻酔の影響による。

4.　酸素飽和度の低下は創痛による。

２）下痢の回数は減り、摂食も良好で、術後３週で退院が決定した。Ａさんへの退院指導で正しいのはどれか。２つ選べ。

1.　炭水化物を中心にした食事を勧める。

2.　下痢は１か月程度でおさまると説明する。

3.　食事は分割して少量ずつ摂取するよう勧める。

4.　食後に冷汗が出たら水分を摂るよう説明する。

5.　ビタミンB12が吸収されにくくなると説明する。

問題37

大腸癌で正しいのはどれか。

1.　男性の悪性新生物死亡数で第１位である。

2.　発生部位では直腸癌の割合が増加している。

3.　食物繊維摂取量を減らすことが予防に有効である。

4.　便潜血反応２日法を１次スクリーニングに用いる。

問題38

上行結腸癌の術後に考えられる合併症はどれか。

1.　便失禁

2.　腸閉塞

3.　排尿障害

4.　勃起不全

問題39

48歳の男性。職場の健康診断で大腸癌が疑われ来院した。検査の結果、下部直腸に腫瘍があり、低位前方切除術が施行された。術前に自覚症状はなく、入院や手術は初めての経験であった。

1）術後順調に経過し翌日には離床が可能となった。歩行練習を促したが、患者は創部の痛みを訴え拒否している。術後の痛みに対しては、硬膜外チューブから持続的に鎮痛薬が投与されている。対応で適切なのはどれか。

1.　痛みがある間は歩行できないと説明する。

2.　歩行練習を１日延期することを提案する。

3.　痛みを気にしないで歩くように説明する。

4.　鎮痛薬を追加使用して歩行を促す。

２）腹腔内に留置している閉鎖式ドレーンから褐色で悪臭のある排液が認められた。考えられる状態はどれか。

1.　腸　炎

2.　腸閉塞

3.　縫合不全

4.　術後出血

３）その後状態は安定し退院が予定された。説明内容で適切なのはどれか。

1.　便秘は浣腸で対処する。

2.　退院後１年は低残渣食とする。

3.　腹部膨満が持続する場合は受診する。

4.　排便回数は術後１、２か月で落ち着く。

問題40

Ｓ状結腸切除術後に最も起こりやすいのはどれか。

1.　悪性貧血

2.　排尿障害

3.　アカラシア

4.　ダンピング症候群

問題41

45歳、男性は、便に血液が混じっていたため受診した。検査の結果、直腸癌と診断され、自律神経を部分温存する低位前方切除術が予定されている。

1）術後に予測されるのはどれか。

1.　排尿障害

2.　輸入脚症候群

3.　ストーマの陥没

4.　ダンピング症候群

２）術後１日。順調に経過し離床が可能になった。腹腔内にドレーンが１本留置され、術後の痛みに対しては、硬膜外チューブから持続的に鎮痛薬が投与されている。看護師が痛みの状態を尋ねると、「まだ傷が痛いし、今日は歩けそうにありません」と話す。このときの対応で最も適切なのはどれか。

1.　体動時に痛む場合は歩行しなくてよいと説明する。

2.　歩行には看護師が付き添うことを提案する。

3.　歩行練習を１日延期することを提案する。

4.　鎮痛薬の追加使用を提案し歩行を促す。

３）術後６日。ドレーンから茶褐色で悪臭のある排液があった。Aさんは、体温38.2℃、呼吸数20/分、脈拍82/分、整であった。Aさんの状態で最も可能性が高いのはどれか。

1.　腸　炎

2.　胆汁瘻

3.　イレウス

4.　縫合不全

5.　術後出血

問題42

開腹術後の患者で機械的イレウスを疑うのはどれか。

1.　排ガスの停止

2.　白血球数の減少

3.　腸管のけいれん

4.　アンモニア臭の吐物

問題43

消化管の異常とその原因の組合せで正しいのはどれか。

1.　麻痺性イレウス ─ 腸捻転症

2.　絞扼性イレウス ─ 胆石発作

3.　弛緩性便秘 ─ 糖尿病自律神経障害

4.　痙攣性便秘 ─ 硫酸モルヒネの内服

問題44

単純性イレウスで正しいのはどれか。

1.　原因は小腸腫瘍が最も多い。

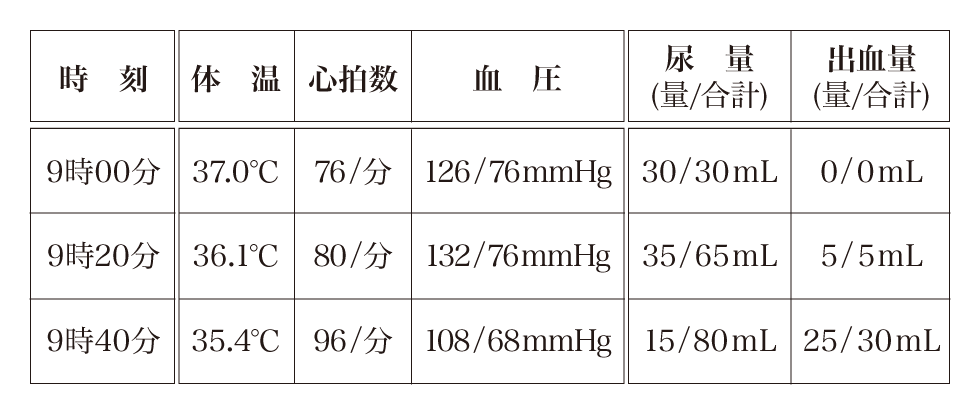
2.　空腸閉塞は大腸閉塞に比べ腹部膨満は軽度である。

3.　腹部聴診で腸蠕動音はほとんど聴取されない。

4.　治療は手術が第一選択である。

問題45

成人男性に対する全身麻酔下の膵頭十二指腸切除術が９時に開始されてから40分間の経過を表に示す。９時40分の時点で、間接介助の看護師が医師に確認の上、実施することとして適切なのはどれか。



1.　輸血を準備する。

2.　下半身を心臓より高くする。

3.　加温マットの設定温度を上げる。

4.　次の尿量測定を40分後に実施する。

問題47

肝細胞癌で正しいのはどれか。

1.　早期から黄疸が出現する。

2.　肝硬変を併発していることが多い。

3.　特異性の高い腫瘍マーカーはCEAである。

4.　我が国ではＢ型肝炎ウイルスに起因するものが最も多い。

問題48

右大腿動脈からの肝動脈塞栓術施行後の対応で適切なのはどれか。

1.　右足背動脈を触診し拍動を確認する。

2.　施行後24時間は絶対安静とする。

3.　帰室後の排便はポータブルトイレを使用する。

4.　鎮痛薬は肝臓への負担があるため使用できない。

問題49

乳癌の自己診断のポイントについて誤っているのはどれか。

1.　乳房の外側上部四分円の発生頻度が高い。

2.　自己診断実施時期は月経前後がよい。

3.　手を高挙すると皮膚にえくぼ様の陥凹が生じる。 Rennshuumonndai

4.　乳頭の位置が左右不対象である。

問題50

乳癌について正しいのはどれか。

1.　乳房の内側に多い。

2.　有痛性の腫瘤が特徴である。

3.　エストロゲン補充療法を行う。

4.　センチネルリンパ節生検により郭清する範囲を決める。